

# ケベック州の (重大な) 教訓

- カナダのケベック州で1997年に行われた幼児教育の利用料引き下げによる保育所の利用の増加は、
  - 母親の就業率を高めた。
  - しかし、子どもらが10-20代になった後の非認知能力、健康、生活満足度、犯罪関与にマイナスの影響を与えた。特に男子に攻撃性や多動の問題が顕著 (Baker et al 2019)。
  
- 幼児教育の効果は (それがプラスでもマイナスでも) 長期にわたって持続する

# 保育環境の「質」を計測する

- 評定はHarms & Clifford (1980)の「保育環境評価スケール」(Environment Rating Scale)を用いる。世界で一般的に用いられる「包括的な就学前教育の質」を計測する方法であり、過去25年以上にわたって幼児教育のフィールドで標準的な「質」の計測方法として用いられてきた (Mashbum et al、 2008)



【幼児版(ECERS)】

- トレーニングを受けた2名の調査員による観察調査 (午前と午後あわせて約3.5時間)。
  - 各項目1点から7点で採点。乳児版(1歳児)で7の大項目、35の小項目、幼児版(3・5歳)で6の大項目、32の小項目を評価。



【乳児版(ITERS)】

- 海外の研究では、保育環境評価スケールの高い施設型の就学前教育を受けていた子供が、就学後に学力が高いというエビデンス (e.g., Byrant, et al, 1994; Peisner-Feinberg & Burchinal, 1997; Peisner-Feinberg et al., 2001)

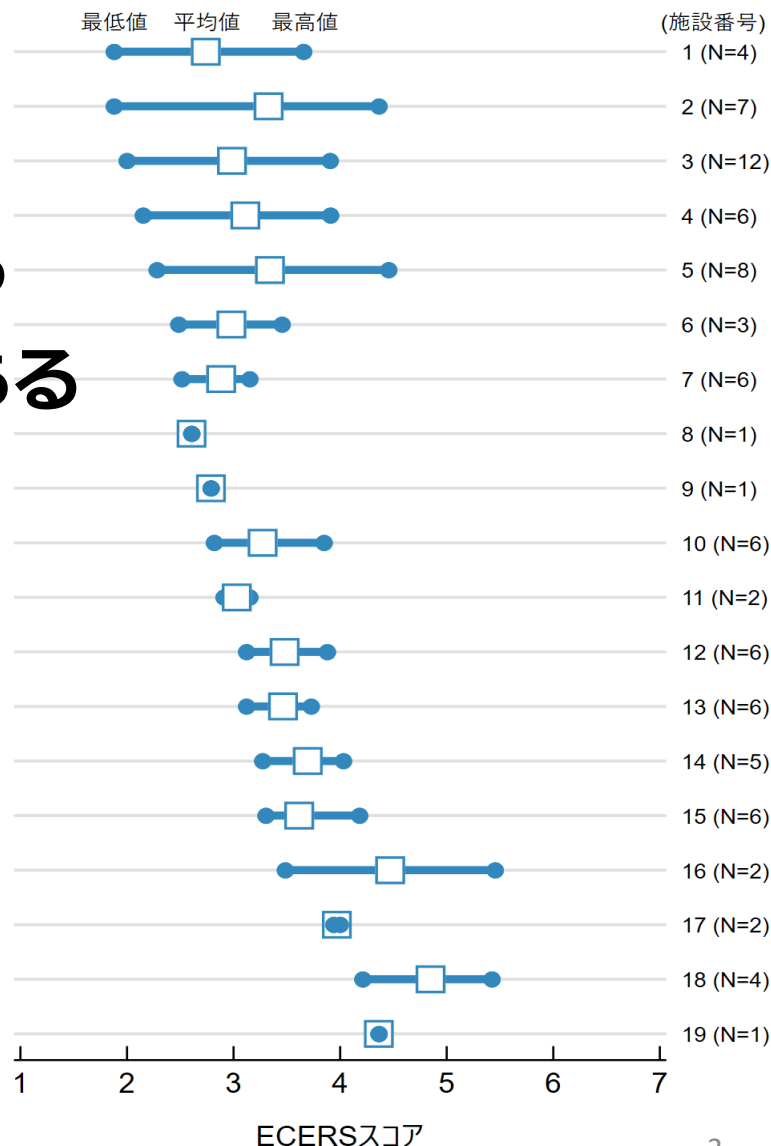
# 保育所の「質」の比較

## 保育の質には

- 保育所間でばらつきがある
- 保育所内でもばらつきがある

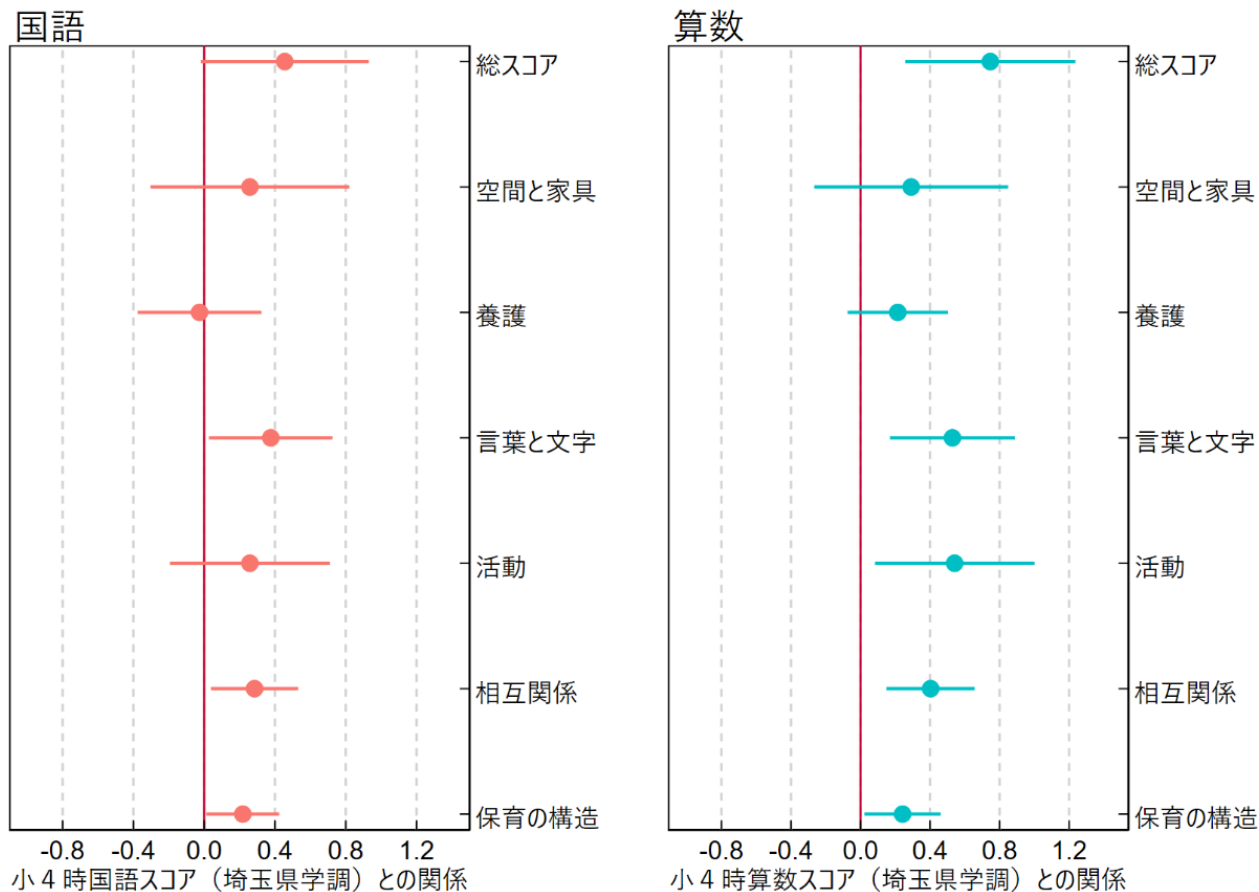
□ 埼玉B市で、認可保育所の3・5歳児クラスを悉皆的に調査。「保育環境評価スケール」で保育の質を計測。2～3名の調査員が約500項目について観察調査を行い、評点を付けた。

□ 同じ保育料を負担しているにもかかわらず、経験できる保育の質が異なっているという状況。



# 保育の質と就学後の学力

- 年長時に良好な保育の質を経験した子どもほど、小4時点での学力が高い
- 保育の質が子どもの成長に長期的な影響をもたらす可能性



(注) 埼玉県B市で計測した保育環境評価スケールと乳幼児発達スケールの相関関係を推定。児童本人の性別、生まれ月、保護者の社会経済的地位などの影響を制御している。

(出所) 藤澤・深井・中室 (2022)